

## 耐震・制振座屈拘束ブレース

# 販売累計10万本突破

新日鉄住金エンジニアリング（社長・藤原真一氏）の建築・鋼構造事業部（事業部長・村上信行常務執行役員）が展開する座屈拘束ブレース「アンボンドブレース」の販売本数が30年で10万本を突破した。鉄の特性を熟知した旧新日本製鉄が鉄の特長を最大限に生かして開発した耐震・制振部材で、国内外の建築・土木分野に幅広く採用されている。足元では物流倉庫建設の活況を背景に採用が増えており、同社では増産体制を敷いて対応。2018年度は前年比4割以上増となる年間1万本の出荷を見込んでいる。

「アンボンドブレース」は軸力新川の第二新日鐵ビルに90本が採用され、59年の阪神・淡路大震災を契機に制振構造への関心が高まり採用ブレース。中心鋼材とモルタルの経済設計が可能となり、基礎を含め急増し、著名物件にも多く採用間にアンボンド材を介在させている。コストダウンできる。メンテされている。05年には日本の新し加わらない構造となっている。軸でも取り替える必要がないなど、とが認められ市村産業賞を受賞した。方向の圧縮・引張り共に安定しストパフォーマンスは高く、リピート。

初適用は1988年で、東京・

## 物流施設向け活況で増産

これまで事務所ビルや商業施設、病院、学校、庁舎、工場、物流倉庫などの建築分野、橋梁などの土木分野など約1200件に適用。従来は超高層建物の制振部材



超高層建物の制振部材から中低層の耐震用途まで多様な施設に適用される「アンボンドブレース」

## 今期出荷 4割超増の1万本へ

として使用されていたが、現在では中低層の耐震建物にも採用されるなど汎用的な耐震・制振部材として活用されている。

製作工場は扶桑機工（大阪府）、矢嶋（長野県）、鴻池運輸（茨城県）の3社で、販売10万本突破はこれら協力会社が丁寧な製造し、品質への信頼を勝ち得た努力のたまものといえる。今後は旺盛な物流施設向け需要を背景に1割の増産を図っていく。ただ、物流施設の需要増がいつまで続くか不透明な面も強く、超高層ビル向けなどの受注にも一層注力していく構え。

海外向けには、米国の西海岸や台湾向けを中心に輸出。海外向けは全出荷量の約1割程度を占めている。現在、米国では現地法人で生産・販売を行っており、日本では9割以上がボルト接合だが、溶接単価が安いことから9割以上が溶接タイプ。米国では現地パートナーがフル生産となっており、生産能力を高めていく方針。

また、台湾などでは超高層建築物向けなど大軸力のニーズが高いことから鋼材の高強度化などを進め、他に類を見ない1千トクラスの事実実験を実施しながらさらなる大軸力への対応を検討していく方針。

